2026年11月13日

各　　位

東京都中野区本町一丁目32番2号
会社名　アクセルマーク株式会社
代表者名　代表取締役社長　坂　達典
（コード番号：3624　東証グロース）
問合せ先　取締役管理本部長　横谷　玲音
（TEL 03-5354-3351）

2026年9月期通期連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2025年11月13日に公表いたしました2026年9月期（2025年10月1日から2026年9月30日まで）の通期連結業績予想と、本日公表の実績値との間に差異が生じましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1．2026年9月期通期連結業績予想値と実績値との差異（2025年10月1日～2026年9月30日）

（単位：百万円。百万円未満切捨て）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想（A）（2025年11月13日公表）	1,308	△486	△501	△502	―
実績値（B）	1,264	△497	△555	△762	△24円36銭
増減額（B－A）	△44	△11	△54	△260	―
増減率（%）	△3.4	―	―	―	―
（ご参考）前期実績（2025年9月期）	973	△520	△672	△763	△49円58銭

（注）1．前回発表予想において、1株当たり当期純利益は公表しておりません。
2．損失項目の増減率は記載しておりません。

2．差異の理由

前回発表予想は、トレカ事業における実店舗「cardéria 池袋店」、公式ECサイト及び当社連結子会社の株式会社craftyのECオリパサービス「アイリストレカ」を通じた販売の拡大、広告事業の収益構造の改善並びにヘルスケア領域における事業展開を前提として策定したものであります。

しかしながら、2026年7月2日に親会社である株式会社コンヴァノを割当先とする第三者割当増資の払込みが完了した後、同年7月以降、トレーディングカードの相場が主要タイトルの大半の商品において本格的な下落局面に転じ、同年9月17日には当社連結子会社のアクセルメディカ株式会社の解散及び特別清算の方針を決定するなど、前回発表予想の策定時点では想定していなかった事態が相次いで顕在化いたしました。これらの事態は、いずれも想定していなかった規模及び速度で生じたものであり、当社グループの業績は非常に厳しい状況にあります。各項目の差異の主な要因は以下のとおりであります。

（１）売上高

トレカ事業の売上高は、上期を中心に実店舗及びECサイトにおける販売が伸長し899百万円（前年同期比198.6%増）となりましたが、2026年７月以降のトレーディングカード相場の想定外の下落に伴い、販売・買取の双方で売買単価が低下し、下期の売上高が予想を下回りました。広告事業の売上高は、主要顧客である国内の電子書籍及びゲーム関連業界における広告需要の低迷が続き、357百万円（同43.9%減）にとどまりました。その他事業（ビューティー＆ウェルネス事業）は、アクセルメディカ株式会社の事業運営の継続が困難となったことから、売上高は７百万円（同78.0%減）となりました。前回発表予想の策定時における事業別の売上高の前提との差異は、トレカ事業43百万円、広告事業８百万円それぞれ下回りました。一方、その他事業においては、化粧品事業による売上高を前回発表予想に織り込んでいなかったことから、７百万円上回りました。

この結果、売上高は1,264百万円と、前回発表予想を44百万円下回りました。

（２）営業利益

売上高が前回発表予想を下回ったことに加え、トレーディングカード相場の下落に伴う在庫の評価影響等により、営業損失は497百万円となり、前回発表予想に比べて11百万円拡大しました。トレカ事業のセグメント損失は182百万円（前年同期は159百万円のセグメント損失）と赤字幅が拡大しております。

（３）経常利益

第三者割当増資等に伴う新株発行費31百万円、新株予約権発行費15百万円及び投資事業組合運用損11百万円等の営業外費用を計上したことにより、経常損失は555百万円となり、前回発表予想に比べて54百万円拡大しました。

（４）親会社株主に帰属する当期純利益

上記に加え、貸付金の回収可能性を慎重に検討した結果計上した貸倒引当金繰入額97百万円、トレーディングカード相場の下落による収益性の低下に伴う株式会社 crafty に係るのれん及び「cardéria 池袋店」の店舗設備の減損損失46百万円、転換社債償還損36百万円、商品評価損12百万円等、合計202百万円の特別損失を計上したこと、及び繰延税金資産の取崩しにより法人税等調整額11百万円を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純損失は762百万円となり、前回発表予想に比べて260百万円拡大しました。なお、前回発表予想においては、特別損益及び法人税等調整額の計上は見込んでおりませんでした。前回発表予想との差異260百万円のうち、特別損失（202百万円）及び法人税等調整額（11百万円）以外の部分は、主に上記（３）の経常損失の拡大（54百万円）によるものであり、特別利益８百万円の計上により一部相殺されております。

３．今後の見通し

決算期変更（2026年12月23日開催予定の第34回定時株主総会における定款の一部変更の承認が前提）に伴う経過期間である2027年12月期（2026年10月１日から2027年12月31日までの15か月間）の連結業績予想は、本日公表の「2026年９月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」に記載のとおり、売上高1,402百万円、営業損失613百万円、経常損失633百万円、親会社株主に帰属する当期純損失634百万円を見込んでおります。

トレーディングカード相場の下落は2026年10月に入っても続いており、既存事業の黒字化への道筋は現時点において見出せておらず、当面の間、営業損失の計上が継続する見込みであるなど、当社グル

ープは引き続き非常に厳しい状況にあります。

以上

＜本リリースに関するお問い合わせ先＞
アクセルマーク株式会社 経営管理部
メール：ir@axelmark.co.jp